

第 1 回・第 2 回における主な議論

※ 第 1 回・第 2 回における主な議論を事務局の責任においてまとめたもの。

1. 「女性の健康総合センター」を司令塔とした取組の推進

【議論のポイント（案）〈第 1 回提出資料〉】

- 「女性の健康総合センター」の機能の充実（データ収集・管理・解析、基礎研究・応用研究、情報収集・発信、診療機能の充実等）
 - 「女性の健康総合センター」を中心とした診療拠点の整備、研究、人材育成の推進など、女性の健康の支援体制の全国的な構築
- 「女性の健康総合センター」を中心とし、中高年期の女性が悩む健康課題に適切に対応できるよう、関係学会の協力を得ながら診療領域横断的な考え方を整理するほか、診療拠点の整備等を目指す。【構成員】
 - 「女性の健康総合センター」については、女性の健康問題が与える社会的・経済的インパクトを考えると、独立したセンターとして十分な規模を備えた組織として、才能ある人材の確保等を通じた診療面の充実が必要であるとともに、次世代までにつながるデータセンターを設置することも必要。【参考人】
 - 性差医療を実践する医療体制とデータ利活用の推進に向けて、「女性の健康総合センター」における性差医療の拡充や、地域を代表する医療機関とのネットワークの構築、ナショナルセンター間や医療データメガバンクとの連携を進めるべき。【参考人】
 - 性差を考慮した医療・医学研究、データ利活用の推進が健康寿命を延ばし、医療費、労働損失の軽減に直結することから、全ての医療者・医学生が性差医学を学ぶことが望ましく、医療者に対しては医学教育・医師会研修・産業医講習などへ性差医学の体系的な導入を、医学部生に対しては性差医学のテキストやビデオ教材の活用を進めることも考えられる。【参考人】
 - 更年期障害は非常に様々な症状があり、更年期障害と誤診されやすい内科系疾患がたくさんあるため、こうした内科系疾患をきちんと診断し、更年期障害と区別して、その内科系疾患に対して適切な治療が出来るようにすることが大切。具体的にはどういったものが更年期障害で、どういったものが更年期障害に似ている内科疾患なのかということについて、分かりやすいガイダンスを作成し、かかりつけ医に啓発して、かかりつけ医が適切に診療を行える体制を構築することが必要。【参考人】
 - 更年期障害は女性の中高年期に極めて高頻度で生じるが、受診率は低く、啓発と受診につなぐ体制整備が不可欠である。更年期は決して恥ずかしいもの、隠すもの、我慢す

るものではなく、糖尿病や高血圧と同様にしっかり把握して管理することが重要なので、こういった点についての啓発活動の充実が必要。また、更年期についての研究の充実や、時間を掛けて更年期に係る診療を行えるようにすることが重要。【参考人】

○ 男性の中高年期の健康課題についても考え方の整理を行う。【構成員】

○ 男性更年期は、年齢ではなく環境・社会的ストレスに起因する側面が大きく、就労機能への影響があるほか、個人の問題にとどまらず、組織のパフォーマンス、生産性に直結する健康経営課題でもある。かかりつけ医機能を有する医師が、男性更年期に気づき、マネジメントしていくことが重要となっている。男性更年期を広く国民・企業に普及啓発し、早期受診を促す機運醸成を進めるとともに、就労機能との関連も含めて、男性更年期に係る介入ポイントの科学的検証や評価指標の開発を進めることが重要。【参考人】

2. 性差に由来する健康課題に対する生涯にわたる取組の推進

【議論のポイント（案）〈第1回提出資料〉】

- 母子保健、学校保健、職場健診等における取組
 - 学童・思春期、成人期、更年期、老年期等の各段階における取組
- 関係行政機関や自治体・企業・教育機関等の協力の下、着実に「プレコンセプションケア[※]推進5か年計画」を進めていくため、具体的な工程表を策定・公表したい。【構成員】
- ※ 性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う概念。
- ライフデザイン支援の一環として、学校等の教育現場でプレコンセプションケアに係る知識を伝えていくことや、若年層が気軽に相談できる体制の構築が重要であり、教育委員会や学校現場との連携強化は必要不可欠。【構成員】
- プレコンセプションケアの普及に当たっては、いきなり大人になってから聞くというのではなく、中学校段階等から聞いているということが重要なので、学校教育段階において女性の健康に関する内容に触れる機会を持つことが重要。また、診療科横断的なアカデミアと行政機関の連携も大切。【参考人】
- 学校保健において、児童生徒の発達段階を踏まえ、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理・改善していく資質・能力を育成していくため、小学校中学年からの体系的な保健の指導について、指導の充実を図っていく。【構成員】
- プレコンセプションケアの取組は、将来のキャリア形成や出産・育児に向けた社内理解等に悩む若手社員も多い中、管理職と若手社員の意思疎通の円滑化、社員の希望するライフデザインの実現による従業員エンゲージメントの向上など、様々なメリットが企業にも考えられるため、健康経営の視点等からも、企業での取組を進めることが重要。【構成員】
- 労働安全衛生法の標準問診票に女性特有の健康課題（月経困難症、月経前症候群、更年期症状など）に関する質問が追加されることを受けて、健診医が更年期症状を診ることのできる医療機関につなぎ、医療機関が企業等に対して環境調整などを適切に行えるスキームを作っていくことが重要。【参考人】
- 女性が活躍できる地域づくりに向けて、全国の意欲ある68の自治体において、PMS[※]などの女性の健康課題への理解不足により生じるものを含めた「働き方の課題」等を解決していく「地域の働き方・職場改革」の取組を行っているところ、「地域働き方・職場改革等推進会議」における議論も踏まえ、自治体の地域密着型の活動を支援し、全国

的な波及を目指すことで、働く女性の健康課題への対策を強化していく。【構成員】

※ 月経前症候群：月経の前に現れるところからだの不調

- 男性更年期は、年齢では無くて、環境因子・社会因子の影響が大きいので、早期発見に当たっては、仕事の場での変化に着目することが重要。【参考人】

3. 性差に由来する健康課題に対応するための研究開発の推進

【議論のポイント（案）〈第1回提出資料〉】

- 性差関連の基礎研究
- AMEDにおける性差関連研究
- フェムテック等ヘルスケアサービス関連の研究

- 第3期健康・医療戦略に基づき、男女で異なる疾患リスク等について解明を進める基礎研究や、発達段階の調査を通じた思春期の健康増進についての疫学研究など、多角的に研究を行っている。AMEDにおいても、研究開発全体に性差の視点を取り込むべく、方策を講じている。【構成員】
- 疾病の早期予防・介入への更なる貢献を目指して、これまで整備してきているバイオバンクも活用しながら、女性の健康や性差に関する研究基盤を充実し、疾病の発症リスク予測やメカニズム解明に向けた研究開発を強化していくことが重要。【構成員】
- 性差への配慮不足や女性の健康データ不足により、医療の有効性と提供の間にギャップが生じているため、性差やライフコースを考慮した医学研究とデータ利活用の推進が重要である。性差医学とジェンダード・イノベーション[※]は、医療と経済の両立を実現する成長分野であり、性差とライフコースを考慮したAI開発やジェンダード・イノベーションを推進すべき。【参考人】
 - ※ 生物学的性（Sex）・社会的・文化的性（Gender）に基づいた分析を行う研究、およびその結果を取り込むことによって創出されるイノベーション。
- 基準値・正常値の設定が男女で異なるため、本来、臨床試験は男女別に行わなければならないが、現実的制約のため、同時に行わざるを得ない状況である。性差を意識した研究デザインの改善が重要である。【参考人】

4. 企業・保険者における対応の推進

【議論のポイント（案）〈第1回提出資料〉】

- 予防・健康インセンティブを通じた、企業・保険者における健康投資の加速
 - インセンティブ・支援や地域の関係者との連携を通じた、中小企業における健康経営、女性の健康課題対策の強化
 - ヘルスケア産業の創出・振興
- 医療保険者による「データヘルス計画」に基づく取組の推進に当たって、インセンティブの見直しを行いながら、性差に応じた健康支援を含む予防・健康づくりの取組の評価を行っている。【構成員】
- 女性の健康課題への対応を含めた健康経営は、女性従業員を含む人材の確保・定着にも資する取組。特に規模の小さい中小企業では女性従業員の割合が多い傾向にあり、こうした中小企業においても、健康経営の取組を一層普及させていきたい。【構成員】
- PHR※を活用した製品など、エビデンスを有した製品が創出され、それがデータを介して医療とつながり、ビジネスとしてスケールしていく、その一連の過程をサポートしていくことが重要。【構成員】

※ Personal Health Record の略。健康診断結果をはじめとする、体重、血圧、血糖値等の情報等の個人の保健医療情報のこと。